

こうちゃん

堀内 武虎

こうちゃん。ぼくのお父さんのあだ名。ぼくが三年生になった時、ぼくのお父さんになったんだ。

ぼくの家族は、お母さんと五人兄弟の六人だった。ある日、こうちゃんが家に来た。ずっと玄関に立っていて、なかなか家に入ってこないから、みんなで大笑いした。これが、こうちゃんとの出会い。

「起きろっ。遊びに行くぞ!!」

日曜日の目覚まし時計のこうちゃんのかけ声。こうちゃんは一番に起きて、みんなの水筒を用意している。そして、いろんな所へ連れてってくれる。ぼくは、日曜日が大好きだ。

ゴーカートに乗ったとき、ものすごいスピードと、地ひびきのような音とともに、「ひゃっほーい!!」って、ぼくたちを追いぬいていった。「もう一回いくか!!」って、そんなに乗った目が回っちゃうよ。こうちゃんは、ぼくたち五人と、いつも楽しそうに遊ぶんだ。たくさん遊んで家に帰って、一番下の弟と昼ねをする。横になって、たった十秒で大きなびききをかきはじめる。弟が眠れないよ、こうちゃん。

そんなこうちゃんが、一度だけ怒ったことがある。ずっと習いたかったサッカーを、ずる

休みしないという約束で、習えることになった。でもその日はゲームをやりたくて、ずる休みをした。仕事から帰ってきたこうちゃんは、毎回サッカーのことを聞いてくる。ぼくはうそをつけなくて、正直に言ったんだ。そしたら

「約束をかんたんにやぶるな。自分で決めたことは、やり通してみろ。」
と、真けんな目で言われたんだ。こんな目を見るのは初めてで、大きな粒の涙が、ポロポロと、ほっぺを流れた。ごめんなさいって、本当に反省して、涙が止まらなかった。

こうちゃんは、仕事から帰ってくると汗くさい。だから、すぐにお風呂に入るんだ。ぼくたちも参入する。お風呂がプールになったみたいに楽しいから。さわぎすぎて、たまにお母さんに、しかられる。

こうちゃんって、すごい。こんなに汗かいて、一生けん命働いて、ぼくたち五人のお父さんになってくれた。お母さんを助けてくれた。「将来が楽しみ」って、いつも楽しそうなこうちゃん。ぼくが大きくなったら、サッカーせん手になって、スタジアムの特とう席に招待してあげるよ。こうちゃん、きつと泣いて喜ぶと思うんだ。

今日からぼくは、「こうちゃん」じゃなく「お父さん」って呼んでみようと思う。だって、世界でたった一人の、ぼくたちのお父さんだから。笑っているお父さんも、いびきのすいお父さんも、叱ってくれたお父さんも、全部大切なお父さんです。

お父さん、いつもありがとう。